



ご挨拶

いつも手塚治虫、そして手塚作品を大切にいただき、心より感謝申し上げます。

1989年の2月9日、手塚治虫は「鉄腕アトム」の時代背景となった21世紀を迎えることなく、60才という若さでこの世を去りました。

その後、当社は順風満帆とはいわないまでも、どうにか活動を続けてこられました。手塚作品の素晴らしさは勿論ですが、遺族の皆様の温かいご支援、また、手塚プロダクションのスタッフの情熱、そしてなによりも手塚作品を愛し続けてくれた皆様のお蔭です。

今後も私たち手塚プロダクション一同は、手塚治虫の愛した漫画とアニメーションの発展に寄与するとともに、いつまでも手塚治虫の心を大切に、より多くの世界の子供たちに「あらゆる命の尊さ」を伝えていきます。

それが手塚治虫の仕事場であった手塚プロダクションの使命だと考えております。

代表取締役 松谷孝征



会社概要・組織図

商号 株式会社手塚プロダクション
設立 1968年1月23日
資本金 20,000,000円

代表取締役 松谷孝征
取締役 手塚眞
取締役 手塚るみ子
相談役 葛西健蔵

社長	著作権事業局	代表03-3371-6411
	営業1部(広告、商品化、他)	03-3371-6412
	営業2部(映像、イベント、流通・ショップライセンス、他)	03-3371-6413
	営業3部(インターネット、モバイル、他)	03-3371-6419
	クリエイティブ部(企画、デザイン、他)	03-3371-6428
	出版局	
	出版部(出版、出版開発、他)	03-3371-6423
	資料部	048-481-7775
	製作局(映像制作)	スタジオ代表048-481-7771
	制作部	直通048-481-7772~4
	演出部	
	作画部	
	システム部	03-3371-6499
	経理部	03-3371-6498
	総務部	03-3371-6499
	宝塚事務所	0797-83-1780



著作権事業局

「楽しむ手塚①、②、③」

手塚プロダクションでは「楽しむ手塚①、②、③」というカンパニーポリシーを作りました。楽しむ手塚①はファンが楽しい。②は関わる人が楽しい。③は手塚プロが楽しい。この三つの楽しいを実現させるため手塚プロダクションは活動してゆきます。

今世界はものすごい勢いで動いています。グローバルゼーションやイノベーションの進化が合理的で便利な世界を実現させる一方で、人類はどこへゆくのかということに不安を覚える人も少なくありません。暴走する科学の危険、引きこもる子供の心の歪み、孤立する老人の不安など手塚治虫が五十年も前に作品で警告したことがまさに現実化しています。

しかしながら手塚治虫ライブラリーには今まで人類が考えたすべての思想が包含され、民族や国家、時代や世代、ジェンダーという枠を超える普遍的な価値を捕らえようという手塚治虫の試みが、読者に人生や、社会について考察する示唆となっております。手塚治虫がキャラクターやストーリーを変えて、繰り返し描いてきたことを私達手塚プロダクションは、今この現代の一人でも多くの人々に伝えてゆきたい。

そのために世界の多くの才能ある人々と関わり、新たなアニメーションや漫画、イベントをもって人々、特に子供たちに伝えてゆくためのポリシーがこの「楽しむ手塚①、②、③」なのです。

私達が考え、行うとしていることはファン（世界の子供達）が喜ぶのだろうか、またそれを実行するためにはどれだけの人の助けや他の機能を必要とするのか（関わる人が楽しい）。そしてファンや関わる人が楽しいことが手塚プロダクションも楽しいと感じたい。

人々と一体になって楽しみを分かちあう、そういう企業作りを目指してゆきたいと思っております。

手塚プロダクション著作権事業局

局長 清水 義裕

著作権事業局 営業1部

- キャラクターの広告許諾
- キャラクターの商品化許諾

「いつまでも心に残るキャラクターを」

これまでに、膨大な手塚作品の中から1000を超える個性豊かで、親しみ溢れるキャラクターが生み出されました。

これらは全て手塚治虫の夢から生まれ、その作品と共に育まれて来ました。

これからも永遠に人々の心に残り親しまれ続けていくことでしょう。

私たちは、いつまでも暖かく人々に語りかけるキャラクター商品を作ります。

親と子、恋人同士、友人たちの絆を深める、やさしい会話の生まれるもの、そしていつまでも素晴らしい思い出になればと願いながら。

また、ライセンサー独自のノウハウはオリジナル商品の開発やショップ展開にも生かされています。



著作権事業局 営業2部

- 映像事業（販売、開発）
- イベント、展覧会の企画、制作、運営およびカタログ制作
- 施設の企画、制作、運営
- キャラクターショップの企画、運営
- 自社ブランド商品開発事業
- ショップライセンス事業

映像事業

手塚原作アニメーションの販売を国内・世界市場へ積極的に行っています。
また近年では、手塚の漫画原作からインスパイアされる新しい作品企画にも力を入れ、アニメ化のみならず実写化や舞台化に向けたプロジェクトにも積極的に参加しています。



イベント事業

イベント事業では、これらを元に「展覧会」や「イベント」の企画・制作を行い、国内外の文化施設・商業施設において開催しております。
また、マンガやアニメーションへの豊富な知識と、業界ネットワークを生かして、手塚治虫に限らず“マンガ・アニメーション”に関する展覧会・イベントの企画・制作、そして施設プロデュース、コンベンションに関する企画・制作・運営に至るまで幅広く行っております。



流通・ショップライセンス事業

たくさんの方に手塚作品の世界へ触れ合っていただく事をこころざし、キャラクターショップの企画、運営を行なっております。また、物流センターを拠点にきめ細やかな対応をもって、クライアントのニーズに合わせた手塚ライセンス商品および自社ブランド商品の供給やショップライセンス事業を行なっております。そして、ショップの運営をする事で、商品購入者の生の声を聞けるというメリットをいかした商品開発を進めております。



著作権事業局 営業3部

- 配信事業の企画、制作、運営、ライセンス業務
- ネットワーク向けコンテンツの企画、制作
- Flash アニメーションの制作
- 携帯電話機のデザイン制作

「何が必要な情報か、ぼくは、生命の尊厳を伝える情報が最も必要でかつ重要な情報だと思います。自主的に、生命の尊厳と生きるということの価値を情報によって与える態度をとることが何よりの心構えではないかと思います」

——手塚治虫 『ガラスの地球を救え』より

上の手塚治虫の言葉は、「情報化社会と私たちの暮らし」というタイトルで1984年に、ある講演で語られたものです。

すでに20年以上前から、情報の高速化・高密度化により、洪水のように情報があふれることを予見しながら、手塚治虫は「最も価値のある情報」を選択し、伝えていくことの大切さを説いています。

インターネットやモバイルは、誰にとっても簡単に情報を発信できるメディアです。便利でありながらも、反面、使用する人々の責任が問われるメディアでもあります。

手塚治虫が生きていたら、この新しいメディアでどんな楽しいことを考えたのだろうか？

手塚治虫がこの時代に生きていたら、インターネットやモバイルというメディアに大変興味をもち、創作活動の発表の場として、大いに活用しようとしたことでしょう。

私たち著作権事業局営業3部では、インターネットやモバイル向けのサービスを通じて、手塚治虫がを伝えたかったことを、世界の方々に伝えていくことを日々考えています。先生だったらどうしただろうと・・・。



著作権事業局 クリエイティブ部

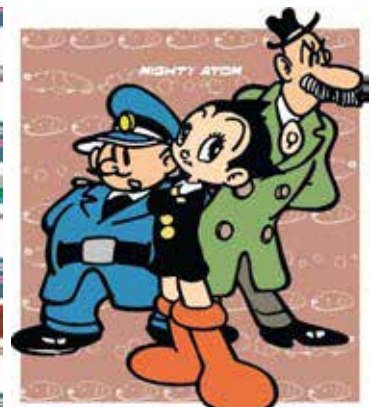
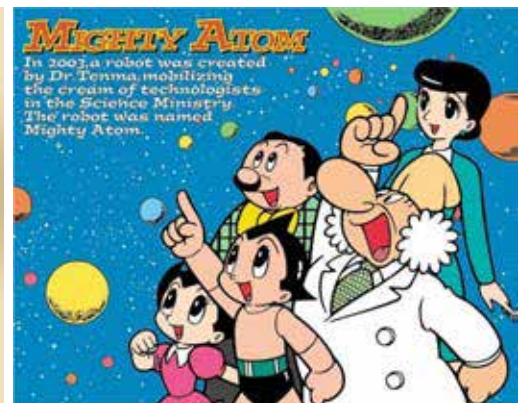
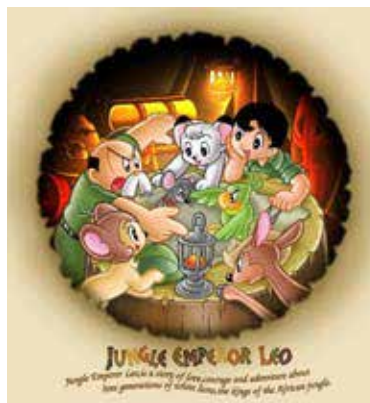
- キャラクターのデザイン開発
- オリジナルキャラクターの開発
- 商業デザインの企画および制作

キャラクターが夢のある世界を生み出す

私たちは手塚治虫が生み出したキャラクターを基に、キャラクターグッズや広告、インターネット&モバイル、イベント、出版物など様々な媒体におけるデザインワークを行っています。ここで開発されたデザインはスタイルガイドとしてライセンスに開放され、各媒体におけるデザイン素材としてご使用いただけます。

また、各媒体に合わせた監修業務を行い、クオリティーコントロールには細心の注意を払っています。

手塚治虫の願い、手塚治虫の精神を継承し、手塚治虫が生み出したキャラクターたちがいつまでも愛され続け、そのキャラクターたちを中心に笑顔が溢れる夢のある世界が広がっていくことを願っております。





TEZUKA PRODUCTION

手塚プロダクション

出版局

- マンガの企画および制作
- 著作権業務、出版の営業および販売
- 出版開発事業

手塚治虫の43年間にわたる創作活動は世界でも類を見ない日本独自の文化“マンガ”を確立しました。

その作品群は様々なジャンルにおよび、マンガやアニメーションが、世界中に与える影響力は音楽や美術、小説といったジャンルを遥かに凌ぐ我国の誇る文化の一つとなっています。手塚治虫の願い、手塚治虫の精神を継承し、手塚治虫が生み出したキャラクターたちがいつまでも愛され続け、そのキャラクターたちを中心に笑顔が溢れる夢のある世界が広がっていくことを願っております。

手塚治虫が生涯にわたり描きつづけたマンガは原稿にして15万枚。

作品の底流には、つねに「生命の尊厳」という強い思いが込められています。

そのような手塚治虫のメッセージをより多くの方に知っていただくために、私たちは国内外での出版事業を積極的に進めています。





施設

●本社

手塚プロダクションの情報発信基地です。

ショールーム・映写室やプレゼンテーションルーム、ミーティングルームなどもあり、内外の関係者との打ち合わせの場でもあります。

〒169-8575

東京都新宿区高田馬場4-32-11

TEL:03-3371-6411 (代)



●スタジオ

アニメーション制作のスタジオです。

美術、演出、作画などのセクションが置かれています。手塚治虫の仕事場や、直筆原稿、アニメーションの資料等も保存しています。

〒352-0011

埼玉県新座市野火止4-4-14

TEL:048-481-7771 (代)



手塚治虫と手塚プロダクションの変遷

- 1928 11月3日、大阪府豊能郡豊中町（現大阪府豊中市）で、手塚繁、文子の長男として生まれ、治と命名される。
- 1933 兵庫県川辺郡小浜村（現宝塚市）に引っ越す。
- 1939 本名の治に虫をつけて“手塚治虫”というペンネームにする。
- 1945 大阪大学医学専門部入学。
- 1946 デビュー作の「マアチャンの日記帳」の連載が『少国民新聞』（のち毎日小学生新聞）関西版で始まる。
- 1947 酒井七馬原作の長編マンガ「新寶島」刊行。版を重ね40万部を売る。
- 1950 学童社の加藤謙一氏と出会い、「ジャングル大帝」を『漫画少年』に連載開始。
- 1951 「アトム大使」を『少年』に連載。
翌年から、脇役に過ぎなかったアトムが主人公となり、「鉄腕アトム」として長期連載されることになる。
- 1953 都内豊島区椎名町のトキワ荘へ引っ越す。「リボンの騎士」を『少女クラブ』に連載開始。
- 1958 「びいこちゃん」「漫画生物学」で小学館漫画賞受賞。
- 1961 医学博士の学位をとる。手塚治虫プロダクション動画部設立。（翌年、株式会社虫プロダクションとして正式に発足）
- 1962 実験アニメーション「ある街角の物語」完成。
- 1963 国産初の連続テレビアニメーション「鉄腕アトム」をフジテレビで放送開始、高視聴率をあげる。
「アストロボーイ」というタイトルで「鉄腕アトム」をアメリカNBCテレビが放映。
「ある街角の物語」で芸術祭奨励賞、毎日映画コンクール大藤信郎賞、ブルーリボン教育映画賞受賞。
- 1966 「ジャングル大帝」で、テレビ記者会賞特別賞受賞。
虫プロ商事が発足し、雑誌『COM』を創刊、「火の鳥」を連載開始。
- 1967 「展覧会の絵」で、芸術祭奨励賞、毎日映画コンクール大藤信郎賞、ブルーリボン教育文化映画賞受賞。
劇場版「ジャングル大帝」で、ベネチア国際映画祭銀獅子賞受賞。
「鉄腕アトム」ほか諸作品で、放送批評懇談会ギャラクシー賞受賞。
- 1968 漫画制作のため株式会社手塚プロダクションを設立。
- 1970 「火の鳥」で講談社出版文化賞（児童まんが部門）受賞。
- 1975 「ブッダ」「動物つれづれ草」で、文春漫画賞受賞。
「ブラック・ジャック」で、日本漫画家協会特別賞受賞。
- 1977 「三つ目がとおる」「ブラック・ジャック」で講談社漫画賞受賞。
講談社から「手塚治虫漫画全集」の刊行開始。
- 1979 児童漫画の開拓と業績により、巖谷小波文芸賞。
- 1980 長編アニメーション「火の鳥2772」東宝系で公開。
同作品でラスベガス映画祭動画部門賞、サンディエゴ・コミック・コンベンション・インクポット賞受賞。
国際交流基金のマンガ大使として、国連本部、全米の大学で現代日本のマンガ文化について講演。
- 1984 「陽だまりの樹」で小学館漫画賞（青年・一般向け部門）受賞。
実験アニメーション「ジャンピング」完成。
同作品でザグレブ国際アニメーション映画祭グランプリおよびユネスコ賞受賞。
- 1985 実験アニメーション「おんぼろフィルム」が完成。
同作品で第1回広島国際アニメーション映画祭グランプリ、バルナ国際アニメーション映画祭カテゴリー部門最優秀賞受賞。
- 1986 「アドルフに告ぐ」で、講談社漫画賞（一般部門）受賞。
- 1987 実験アニメーション「森の伝説」1・4楽章完成。
- 1988 「森の伝説」で毎日映画コンクール大藤信郎賞、ザグレブ国際アニメーション映画祭 CIFEJ 賞（青少年映画賞）受賞。
- 1989 2月9日、胃ガンのため死去。
「手塚治虫夢ワールド」開催。「青いブリンク」NHK放送開始。「ジャングル大帝（新）」テレビ東京系放送開始。
- 1990 日本漫画家協会賞文部大臣賞受賞 国立近代美術館で「手塚治虫展」開催。
「三つ目がとおる」テレビ東京系放送開始。
- 1991 手塚アニメ一挙上映の「手塚治虫劇場」開幕。
- 1992 「手塚治虫のガラスの地球を救え」開催。
- 1993 「私のアトム展～100人のMY FAVORITE ATOM」開催。
OVA「ブラック・ジャック」発売。OVA「マグマ大使」発売。
- 1994 宝塚市立「手塚治虫記念館」オープン。
- 1995 「手塚治虫過去と未来のイメージ展」開催。
- 1996 「ブラック・ジャック」松竹系公開。公式ホームページ「TezukaOsamuWorld」開設。
- 1997 「北京写楽スタジオ」オープン。「ジャングル大帝」松竹系公開。手塚治虫漫画全集400巻完結。
- 1998 手塚治虫生誕70周年・手塚プロダクション創立30周年 100年祭開催。
- 2000 「陽だまりの樹」日本テレビ系放送開始。
- 2001 「メトロポリス」東宝洋画系公開。
- 2003 「ASTROBOY 鉄腕アトム」フジテレビ系放送開始。鉄腕アトム 新宿区未来特使に任命。ぼくの孫悟空 松竹系公開。
- 2004 「火の鳥」NHK BS-hi放送開始。「ブラック・ジャック」日本テレビ系放送開始。
- 2005 「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」東宝洋画系公開。
- 2007 「どろろ」東宝系にて公開。
- 2008 手塚治虫生誕80周年事業。